

2023年支部合同写真コンテスト

審査 全日本写真連盟関東本部委員 弥田正蔵(新潟県本部委員長)

総評

長野県は、風光明媚で伝統行事も多く、被写体には事欠かない地域だと思います。今回の応募作品は、素晴らしい作品が多く、場所、時期など地元の強みをいかした作品が目をはきました。審査にあたっては、独創性や撮影意図が明確な作品を選ばせていただきました。

評選

〈最優秀賞〉 「里山春の訪れ」 浅川泰広

手前にタンポポの花、中間の水面には残雪の山が映り込み、そして遠景には残雪の山々など遠近感を見事に表現しています。画面構成が素晴らしく、さわやかな印象を与える作品となりました。

〈朝日新聞社賞〉 「楽しい帰り道」 小林芳夫

桜並木の通学路を、話をしながら帰る子供たち。ランドセルに黄色いカバーを掛けた児童が、傘で遊んでいる様子が印象的です。子供たちの楽しそうな会話が聞こえてくるような見事な作品です。

〈全日写連賞〉 「真夏の遊水地」 小松宏彰

水辺のサギを望遠レンズで狙って、近景と遠景をボカシ、動いているサギにピントを合わせて撮影しています。サギを画面の中央にバランスよく配置し、綺麗な作品に仕上げられています。

〈優秀賞〉 「二人の時間」 早川千芳

初夏の公園でしょうか？ 満開の紫陽花を老夫婦が眺めています。二人が穏やかな時間を楽しんでいる様子が伝わってきます。心温まる作品となりました。

〈優秀賞〉 「山里の春」 林春男

静かな山里に、忙しい春の農作業がはじまっています。道路脇の木には赤い花が咲いています。家なみや、赤い花がバランスよく画面構成され、背景の山並みを入れることによって、山里の情景を上手く表現しています。

〈優秀賞〉 「昼下がり」 神戸幸人

ほおずきの鉢植えに、手桶の水をやったのか、下の舗装が濡れています。縁台に置いたほおずきを、祭り衣装を身に着けた子供と母親が眺めています。昼下がりの様子を上手く捉えた微笑ましい作品です。